

2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：中国 清華大学

留学期間：2019年2月～2020年1月

私は語学能力の向上はもちろんのこと、中国で実際に生活することで身をもって様々な文化を感じ、味わってみたい、また、国際色豊かなキャンパスで生活し、自分とは違う多様な考えに触れ、グローバルな視野を身につけたいと考えこの清華大学への長期交換留学に参加しました。

私は言語の授業を中心に履修しましたが、どの授業でも先生の授業方針や話し方に慣れるまでが大変で、慣れてしまえば楽しく進められました。先生との相性も授業選びで重要だと思います。とにかく会話して自分の考えを相手に伝える、みんなの前で発表する機会が多かったので、日本での比較的受け身な授業体制とは異なり刺激を受けました。そのおかげで発音がネイティブに近づきましたし、日々生活していくうえで徐々に人から違和感なく聞きとってもらえるようになることが嬉しかったです。発表や作文の課題の際には、日本語でも今まで深く考えたことがなかった話題(電撃結婚・親孝行・就職差別・ゲーム理論・エビングハウスの忘却曲線などなど例を挙げ出したらきりがありません)について慎重に考えて話したり長文を書いたり発表しなければならなかったのも、言語以外にも改めて学べる知識が多く大変勉強になりました。そのうえで言語を学ぶ上では母国語が大切なことを実感しました。中国語で思いを伝えたり書いたりする前に、母国語でしっかりと文や内容を組み立てられないといけませんし、母国語の表現力が豊かであれば外国語での表現力も上がると思います。作文や表現の技法、発音を先生に褒められるたびに本当に嬉しかったですし、自信に繋がりました。

授業以外では、学内・学外で行われるイベントや参加できそうなイベントにはなるべく参加しようと心掛けていました。その中でも中国人民対外友好協会の主催する中日青少年友好交流大会への参加の影響は大きかったです。2019年は中日青少年交流促進年だったので、この年に留学に来ている立場として、今後の日中関係に関してじっくり考えられる時間は貴重なものでした。相手国の良い面、悪い面の両方ともしっかり受け止め、相互理解・相互の信頼を高めるためには、互いの国に関する情報を正しく捉えて受け止める必要があると思います。日本で生活していると、注目や視聴率を集めるために外国のネガティブなニュースを大げさに報道しているのを見かけます。実際に中国で生活してみて、実際に住んでいる人にしか分からない立場からそれについて考え、意見を伝えることが出来るようになりました。百聞は一見に如かずと言いますが、日本で報道されている外国の情報を客観的に見て鵜呑みにせず、ソースを確認し実際にそこに住んでいる人たちの主観的な意見も大事にしなければならぬと改めて強く実感しました。この留学を通して以前より自分の国際的な視野が広がったように思えますし、メディアリテラシーも向上したと自覚できます。

夏休みの短期留学を経験してから今回の1年間の長期留学を経験しましたが、まだまだ留学していたい、学んでいたいという気持ちが尽きません。中国北京は過ごしやすく素敵な国で、空気も悪い日はありますが基本は良く、人も温かく優しく、ご飯も美味しく、世間の人々が中国に抱いているイメージとは良い意味で違うと思います。私が留学している期間に大好きな家族や友人が北京に会いに来てくれた

のですが、皆中国に対する印象をポジティブな印象に大きく変えて帰っていきました。中国の良さを自分の身近な人に感じてもらえて、伝えられてとても嬉しいですし、このような輪を大きくしていけば国際関係がより良くなるのではと思いました。個人的に日本人は中国に対して偏見を持ちがちだと感じます。将来を担う若い世代として、もっと本当の中国を知って伝えていき、微力ながらも文化交流の力に、日中友好の懸け橋になればと考えます。ここに書ききれない思いが多いので、是非私のマンスリーレポートなども参照してみてください！

以上です。ご協力ありがとうございました。

2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：中国 清華大学

留学期間：2019年2月～2020年1月

一年間の中国留学を通して、自分自身がとても成長できました。初めは中国語があまり話せず、自分の伝えたい事が相手に伝わらなかつたり、問題が起こった際にもどうしていいかわからず、悔しい思いを沢山経験しました。しかし、このような環境で生活することで、積極的に行動する事とあきらめずに物事をやり遂げる事の大切さを学び、自分自身とても強くなりました。今では、自分の興味のある活動には積極的に参加できるようになり、活動の幅を広げることができています。中国にいる際には、中国の様々な地域の特色を学ぶために一人で寝台列車に乗って旅行に出掛けました。私は中国生活で学んだ積極性とあきらめない心を、これからの生活に生かしていきたいです。

私は一年間の留学の中で、特に重視していた事は勉強と部活の両立です。勉強面においては、積極的に中国人との交流を作り、中国語の向上に努めました。毎週火曜日には、ランゲージパートナーとの会話練習をし、授業後にはカフェで勉強をするという習慣をつけ勉強に励みました。その結果、良い成績を修めることが出来ました。部活においては、中国文化を理解するために太極拳の部活動に参加し、幼稚園の頃から続けてきたダンス部にも所属していました。太極拳は唯一現地の年配の方々に関わる機会となり、北京の方言や中国人の思想を教えてもらうなどとても勉強になりました。先生や現地の方々がとても暖かく、中国人の温かさや人とのつながりの素晴らしさを感じました。さらにダンス部では、発表会や様々なイベントに参加する機会がありました。チームのみんなと一つの目標に向かって苦しい練習を頑張ったことで、本当にかげがえのない友達も出来ました。最後には部長からの信頼を得て、みんなにダンスを教えることや、副部長の仕事を任されるようになりました。これらの部活動を通して、自分に自信が付き、中国の生活での原動力になりました。

私は現地での生活を通して、中国人の性格や文化、歴史、日本と中国の違いなどを理解し、以前よりもっと中国を好きになりました。私が特に中国の好きなところは、「人と人との距離が近く、他人でも家族のような温かさを感じられる」ところです。私が寝台列車に乗った際には、自然と周りの座席の人と仲良くなり、到着時間までおしゃべりを楽しみました。タクシーに乗った際には、運転手が色々な事を教えてくれるので、普段知る事の出来ない事を知ることが出来、とても新鮮でした。このような経験を通して、本当に中国人は温かい人たちが多くと思いました。しかし実際多くの日本人は、中国に対してあまりいい印象をもっていないと思います。日中間の関係をよりよくするためにも、留学を終えた私が唯一出来る事である、中国の経験をみんなに紹介し、より多くの人に中国の良さを知ってもらいたいです。

2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：中国 清華大学

留学期間：2019年2月～2020年1月

2月の後半に中国に到着して、毎日忙しく自分の生活を整えながら学校に行き、近くの観光地に出かけたりしていると一学期が終わり、前学期から留学に来ている友達が続々と帰国していきました。ある日本人の先輩から、『残り半分の留学生活、思っているよりもあっという間なので悔いなく過ごしてください。』と言われました。その方は私たちの前に来ていたフェリスの方に、帰国の際にこの言葉を言われたそうです。本当に短くてびっくりすると思うよと笑いながら日本に帰って行かれました。

その時点で中国に来て約4か月が過ぎていたのですが、毎日毎日が新しいことばかりであと半年以上も残っているしまだ先は長いと考えていました。しかし、ここから夏休みに入り忙しさがなくなって毎日に変化が少なくなり流れるように時間が過ぎていきました。生活にも慣れて中国で新しくできたルーティンをこなすだけだったからだと思います。後期が始まると、忙しいながらも規則的な生活が始まり気づけば帰国の日を迎えていました。先輩から言われた言葉を思い出しましたし、今考えると夏休みはもったいない時間を過ごしたなと思います。

前学期は上限単位いっぱい授業をとって少し大変だったことと、学部が変更になって語学の授業を選択しにくかったこともあり、後期は余裕のある時間割を作りました。友達と出かけたり、学外の活動に参加しようと考えていましたが、思っていたよりも時間がなくて振り返ってみると前学期のほうがもっと活動的だったような気がするほどでした。

良く言えば、異国の地に適応して自分の生活リズムを作り上げることができましたが、悪く言うと、やってみよう、行ってみよう、見てみようという好奇心がだんだんと小さくなり、挑戦する前に辞めていました。こうなってしまうと留学に来ている意味がありません。勉強してたまに買い物をして家に帰るのは日本にいてもできるからです。周りの環境に対する新鮮な感覚を持続させることは難しいですが、自分の中にある熱意や興味関心を持ち続けられるように大まかにではなく月単位の予定や目標を決めて、計画的に過ごすべきだったし、一年間という長期間であっても気持ちのペース配分は大切だなと思いました。

勉強面に関しては満足するレベルは人それぞれだと思うし、やり方も合う、合わないがあるので特に書くことはありませんが、私はまだ留学していたいし、ひとつの後悔もなく留学から帰ってくる人はいなだろうなと思いました。